

一貫校生徒による一貫教育に関する評価 結果(2):自由記述の分析

本報告は全国中高一貫教育研究会紀要第7号(23年11月発刊予定)に
掲載される中高一貫教育10年目の検証(2)の一部である。

中高一貫研究グループ

河合優年 武庫川女子大学教育研究所

勝山元照 奈良女子大学附属中等教育学校副校長

斉藤真子・矢木修 名古屋大学教育学部附属中・高等学校 副校長

植田健男 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

本報告の目的と方法

1) 報告の目的

前回および今回報告する調査は、「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(中教審第二次答申)において指摘された中高一貫教育の利点と懸念について、全国中高一貫教育研究会の研究グループが点検と評価のために実施したものである。

本報告では、前回の審議会発表において触れることができなかった、在校・卒業生および教員の自由記述における結果の一部を述べる。

2) 対象と期間

回答した生徒は在校生2235名、卒業生489名(1999～2004年度までに中学に入学し、2010年3月迄に卒業した生徒)であった。

2009年6月～9月に中高一貫教育校を通じて郵送調査を実施し、調査協力を同意した場合にのみ返送してもらうように依頼した。

3) 回答数

自由記述部分の回答は、項目によって異なるが、前回答者数のおよそ1割程度であった。分析に際しては、記述の中に複数の事項が含まれることがあり、延べ数となっている。

本報告では、実態を重視したことから比率ではなく実回答数で整理している。

調査項目

1) 調査項目は以下のとおりである。

今回は*の部分についての分析結果が報告される。

<記述回答> 答えられる項目のみでかまいません。

*** (1) 中高一貫教育校のどんなところに魅力を感じて、進学しようとしたか。**

(2) 入学前に、周知してほしかった情報はありますか。どんな内容を知りたかったですか。

*** (3) 中高一貫教育校の入学適性検査はどうあるべきだと思いますか。**

(4) 中高一貫教育校の学習活動で、最も印象に残っている取組みは何ですか。

(5) 中高一貫教育校の学校生活で、最も印象に残っている取組みは何ですか。

*** (6) 人間関係の不安定な時期があったと思う人は、どのような事情によると思いますか。**

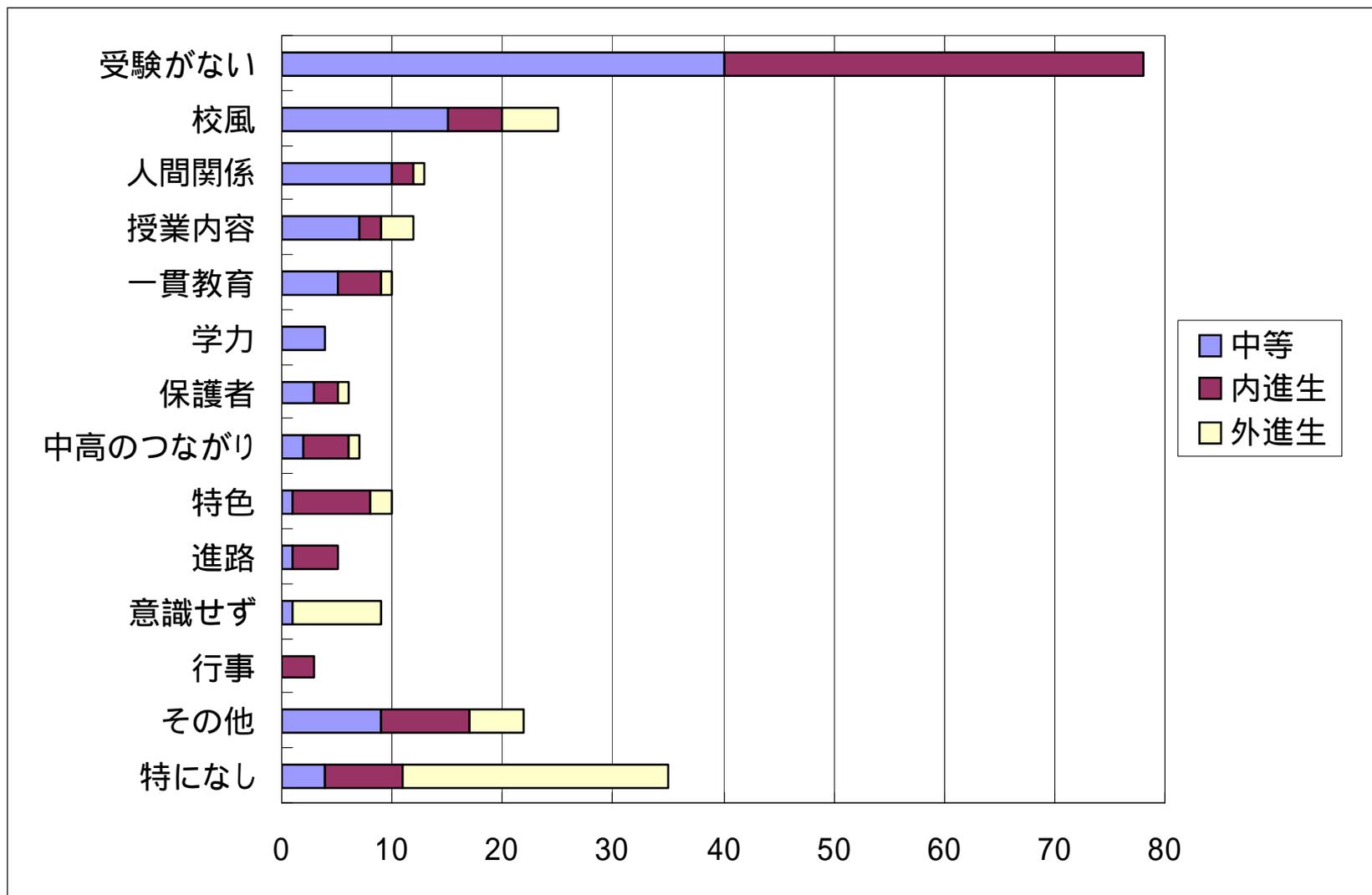
(7) 人間関係の不安定な時期を越えることができたと思う人は、なぜ可能だったと思いますか。

*** (8) 中高6年間の中で、人間的に急成長したと思われる時期(学年)はいつですか。**

*** (9) 中高一貫教育を受けたことで、人格形成に影響した点を記して下さい。**

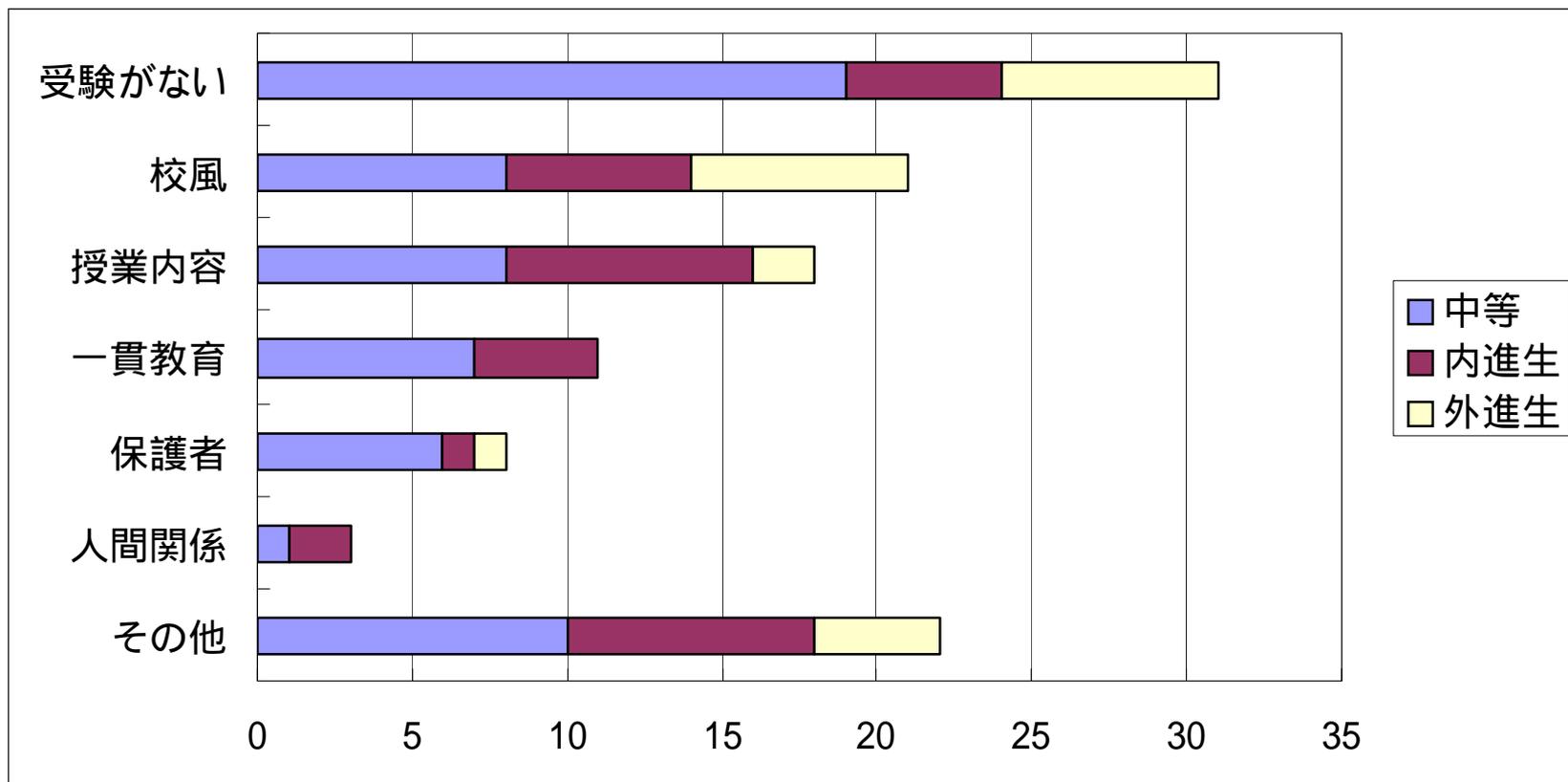
*** (10) 中高一貫教育への提言があればお願いします。**

中高一貫教育校の魅力 在校生



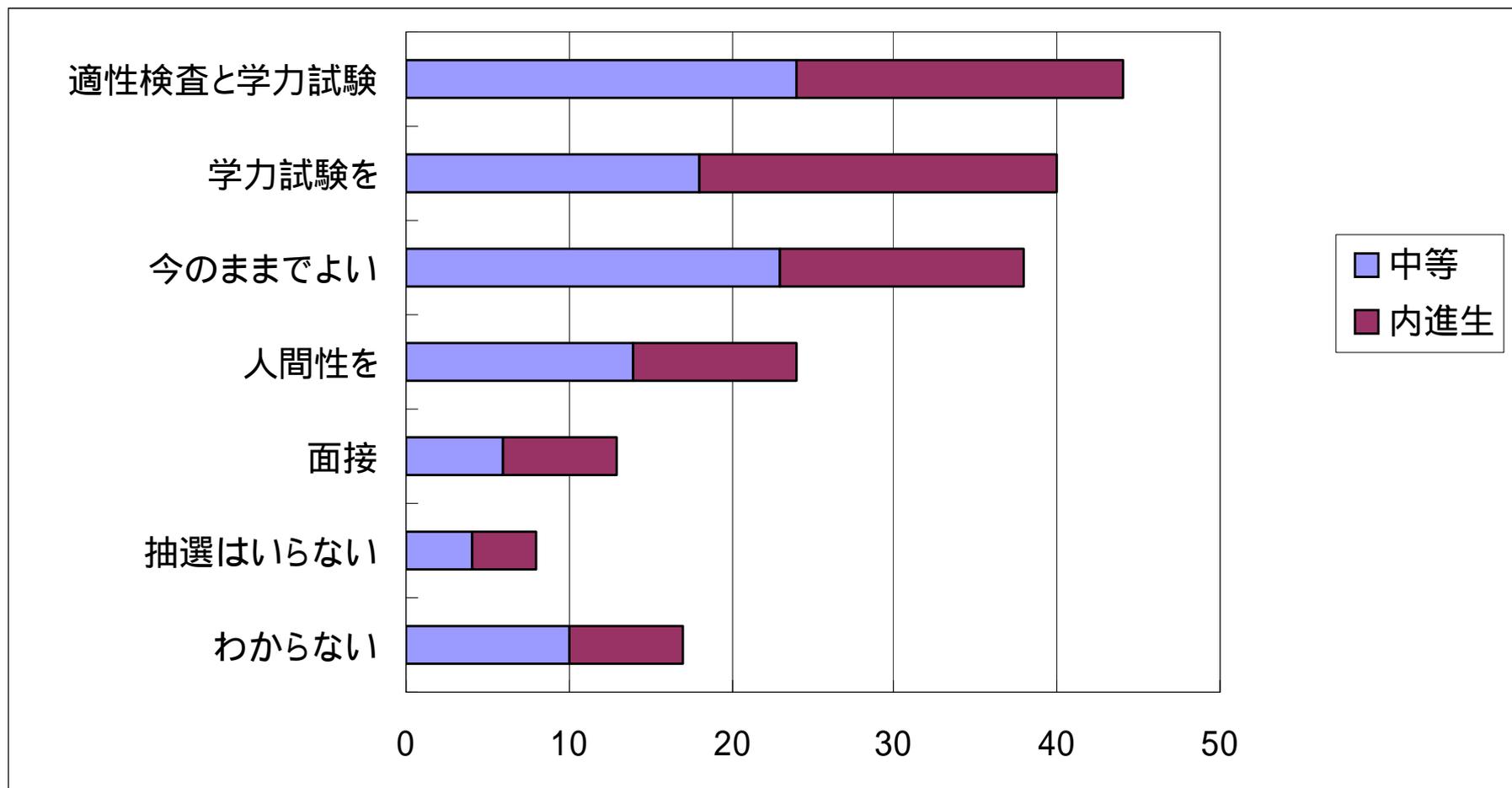
受験がない	<p>高校受験をせずに6年間同じ場所で学べるところ。</p> <p>高校受験をせずに済む所。</p> <p>高校進学時に受験勉強にとらわれず、やりたいことができるところ。</p> <p>高校進学時の受験が無いので発展的なことができると思った。</p>
校風	<p>この学校の校風と人気。</p> <p>自由なところ。自分を解放しても大丈夫そうだったから。</p> <p>自由な校風と社会性を重視したシステム。</p>
人間関係	<p>幅広い人間関係を築けそうだったから。</p> <p>友達関係が深まる。</p> <p>六年間を通じて、深い友人関係を築けると思ったから。</p> <p>6年間の一貫教育で、先生との関係も築けるので、途中で失敗してもやり直すチャンスがあると思ったし、時間をかけて進路を考えられると思った。</p> <p>6年間同じ仲間なので、強い人間関係を築ことができ、それが心の支えになったりして、安心して取り組むことができると思ったから。</p>
授業内容	<p>中高一貫教育というのは全然気にはしてなくて、授業が選択できることに魅力を感じました。</p> <p>基礎からしっかり教える体制だと思ったから。</p> <p>高校の学習内容を先どりできる気がした。</p> <p>自分の意見を尊重した授業が受けれると思ったから。</p>
一貫教育	<p>一貫にしかできない授業。高校生との交流。</p> <p>6年間を通して勉強ができ、中高が同じ環境で生活すること。</p> <p>6年間一緒に学べる人がいるから。</p>
学力	<p>地域で大学を目指すトップクラスの成績の人が集まる、レベルの高い学校というイメージ。</p> <p>レベルの高い仲間が集うと思ったから。</p>
保護者	<p>親が総合学習に魅力を感じてすすめてきた。</p> <p>親にすすめられたから。中高一貫は関係なかった。</p>
中高のつながり	<p>高校生と触れ合う機会が多く、人と違う環境に行きたかったから。受験がないから。</p> <p>先輩の話をたくさん聞ける。</p> <p>他の年代の人と協力したり、学んだりできるところ。</p>

中高一貫教育校の魅力 卒業生



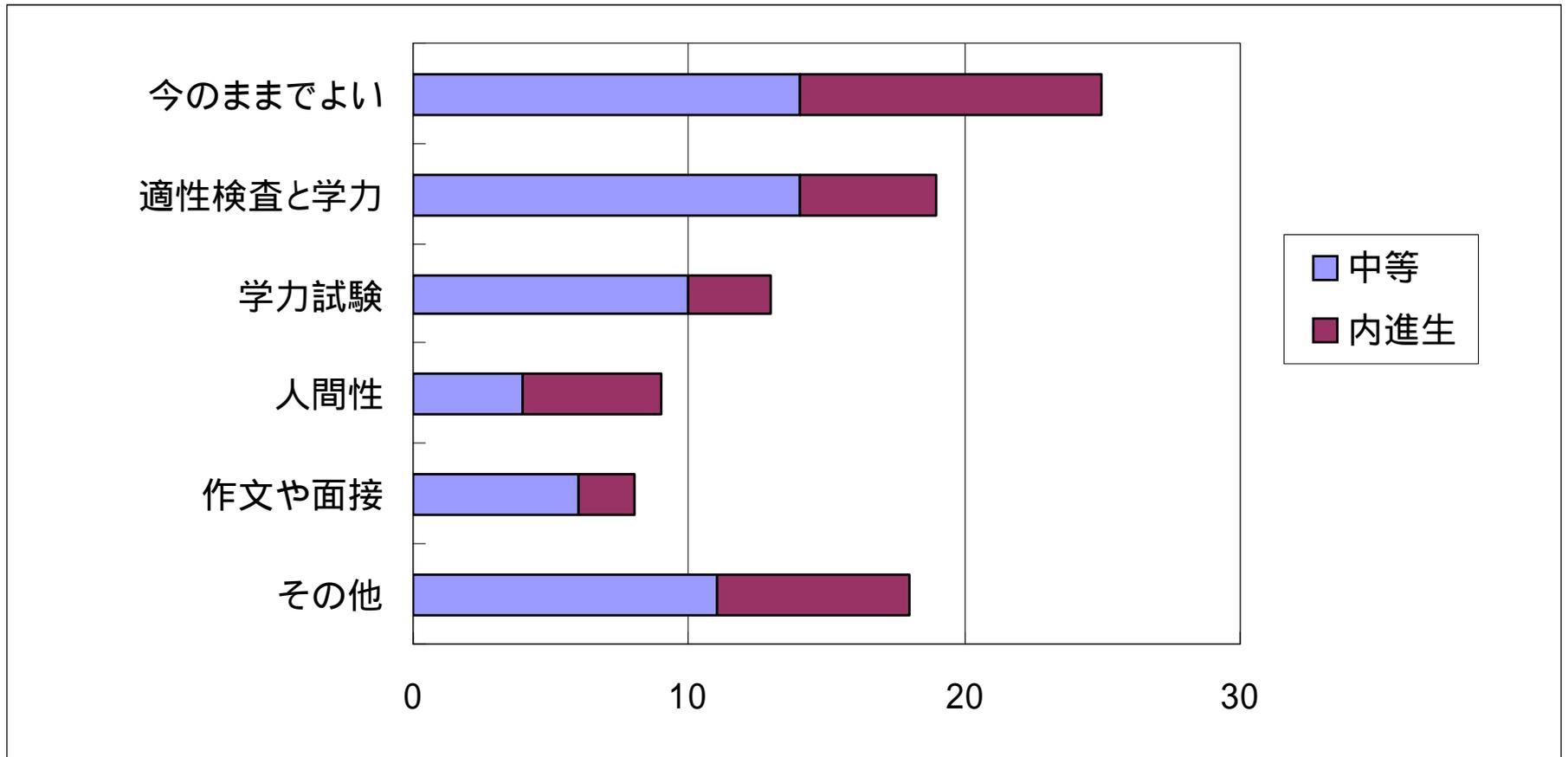
受験がない	<p>高校受験がない代わりに特色ある授業を受けることができるから。</p> <p>高校受験が実質ないところ。</p> <p>高校受験をしなくてもよいので、中学3年時に地元のミュージカルに参加できると思ったから。</p> <p>高校受験を気にすることなく、学校行事などの生活を楽しむことができるところ。友人と長く付き合っていけるところ。</p> <p>中学3年生時に受験がないことで、自分のやりたいことに打ち込むことができる点。</p>
校風	<p>「自由」という校風で、生徒の自主性を尊重した教育を行っている点。</p> <p>「受験のため、進学のため」に勉強するのに抵抗があり、自由な校風の中、自分を見つめながら過ごしていきたかったから。</p> <p>高いレベルの授業。中高の部活動の交流。</p> <p>自主と自由を重んじる校風。</p> <p>変わった雰囲気があったから。</p>
授業内容	<p>大学との連携授業の存在や少人数である点。</p> <p>総合人間科というカリキュラムが自分にピッタリとあっていると思ったから。</p> <p>普通の学校とは異なる授業が行われていること。</p>
一貫教育	<p>中高6年間を使って人間力(協調性・発表力など)を育むところ。新しい仲間が作れるところ。</p> <p>同じ仲間と学校生活を送れたり、環境も大きく変わることなく過ごしていける所。</p> <p>6年間ゆったりと過ごせそうな雰囲気があったため。</p> <p>3年間の学生生活は短すぎると感じていました。6年間という長い学校生活が最大の魅力です。</p>

適性検査のあり方について 在校生



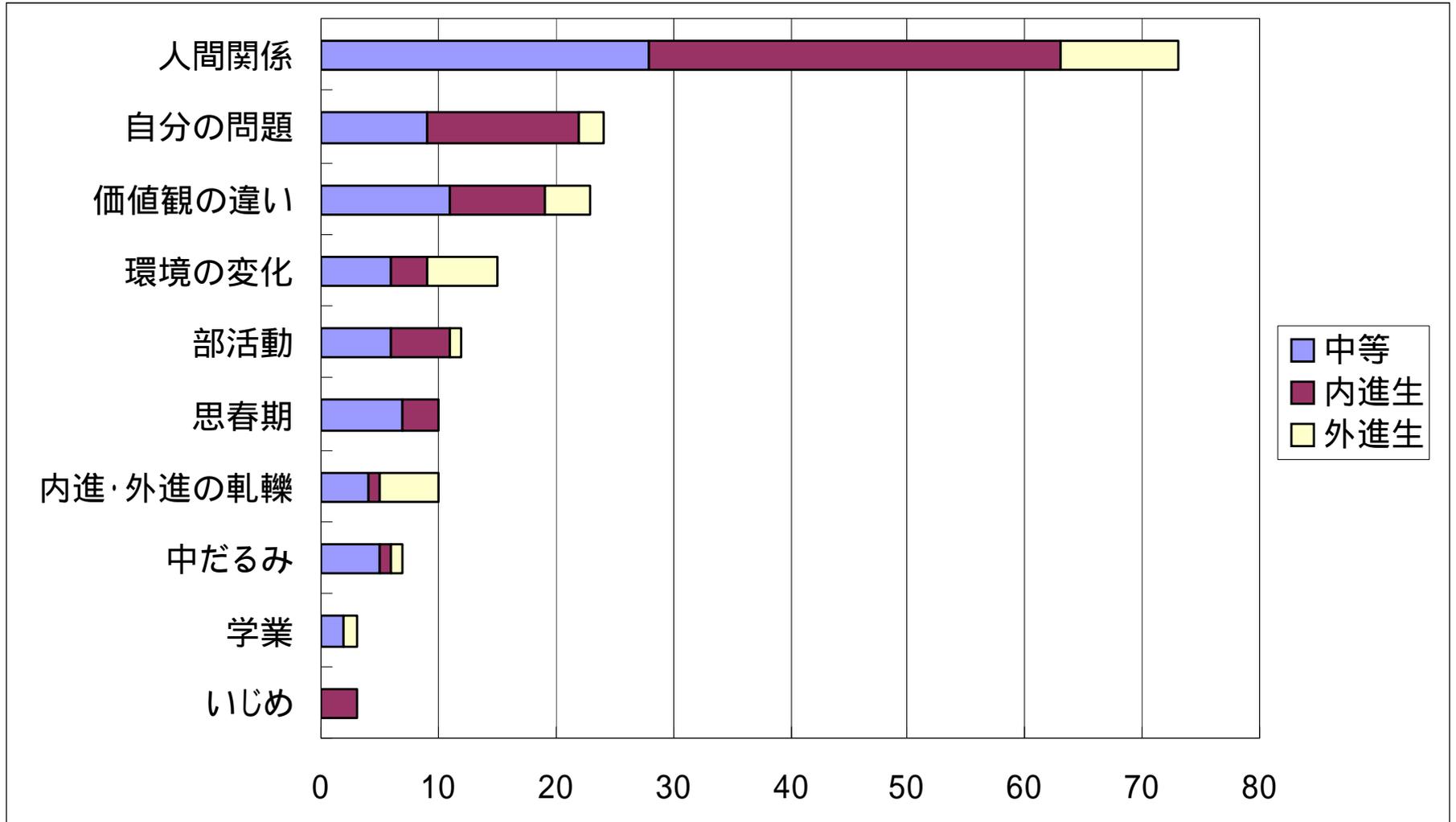
適性検査と 学力試験を	基本的な学習問題と作文及び面接を行う。面接官は専門的知識のある人(教職員でなく)が良い。基本的に今までの形態で良いとは思いますが、ある程度学力も考慮されるべきだとも思う。 学力+作文・面接等。小学校での基礎学力をみる試験+個人の個性をみる試験。 学力テスト 発想テスト 作文 面接 学力テストと、適性を調べるテスト(面接など?)を、どちらも取り入れるべき。
学力試験を	ある程度の学力検査があってもいいと思う。 ちゃんとテストしろ。 ちゃんと学力テストにするべき。 もう少し学力そのものを見るのもあっていいと思う。 学力試験を少し取り入れるべき。 学力重視にした方がいいと思う。
いまのままで よい	このくらいなら許容範囲だと思う。 このままでいい。 これでいいです。個性のある人が入れるので。 今のままでいい。勉強だけしたい人は私立に行けばいい。
人間性を	勉強よりも「人間性」がためられるような試験であるべき。 色んな特技を持った人が選抜される点が良い。 その人の人柄を見るべき。学習面も多少は必要ですが...。 もっと人間性を見るものにすべき。
わからない	私たちがどうこういう問題ではないと思う。 あまり個性的にしすぎるのは、よくないと思う。

適性検査のあり方について 卒業生



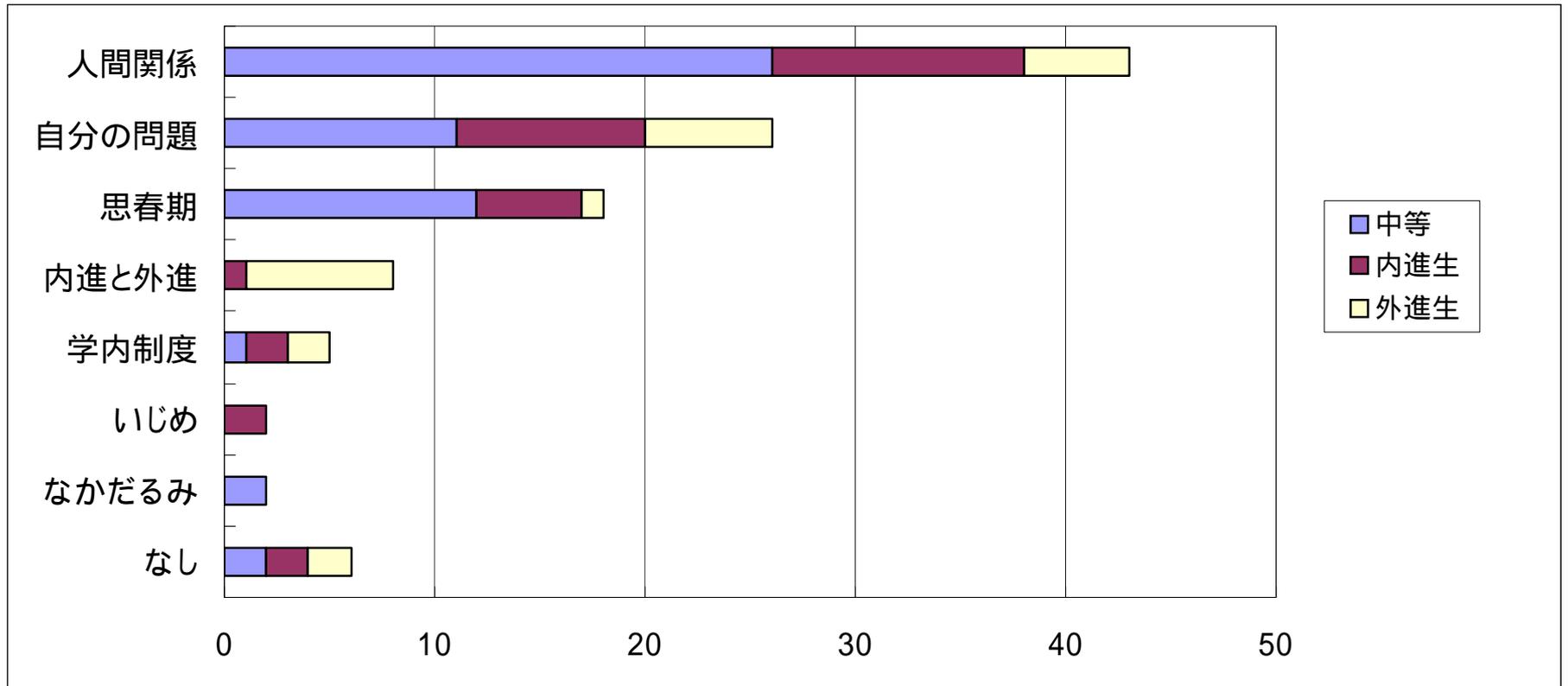
今のままでよい	今のままでよいと思う。 今まで通り、一般と推薦の2通り。 今まで通りのおもしろい入試でいいと思う。 このままでいいと思います。 おもしろくあるべき。「えっ、これ試験？」という意外性がほしい。
適性検査と学力	ある程度の学力検査は維持しつつも、大学のAOのように、 学力だけで判断しない方法も入れてもよいと思う。 ある程度の基礎学力を測りつつも、創造力や思考力を測ることができる 検査をすべきだと思います。 一定の学力的基盤も重視しつつ、その上での個性や表現力を見るもの。
学力試験	もう少し、学力テストに近づけるべき。 やはり学科試験も入れなければならないだろう。 学力テストもある程度必要だと思います。 公正な学力審査であるべき。 試験はすべきと思います。
人間性	学力だけでなく、コミュニケーションの力なども検査するとよいと思います。 学力だけではなく、人間性や創造性などを重視した内容。 1人1人の個性を見ることが出来るもので良いと思います。

不安定になった理由 在校生



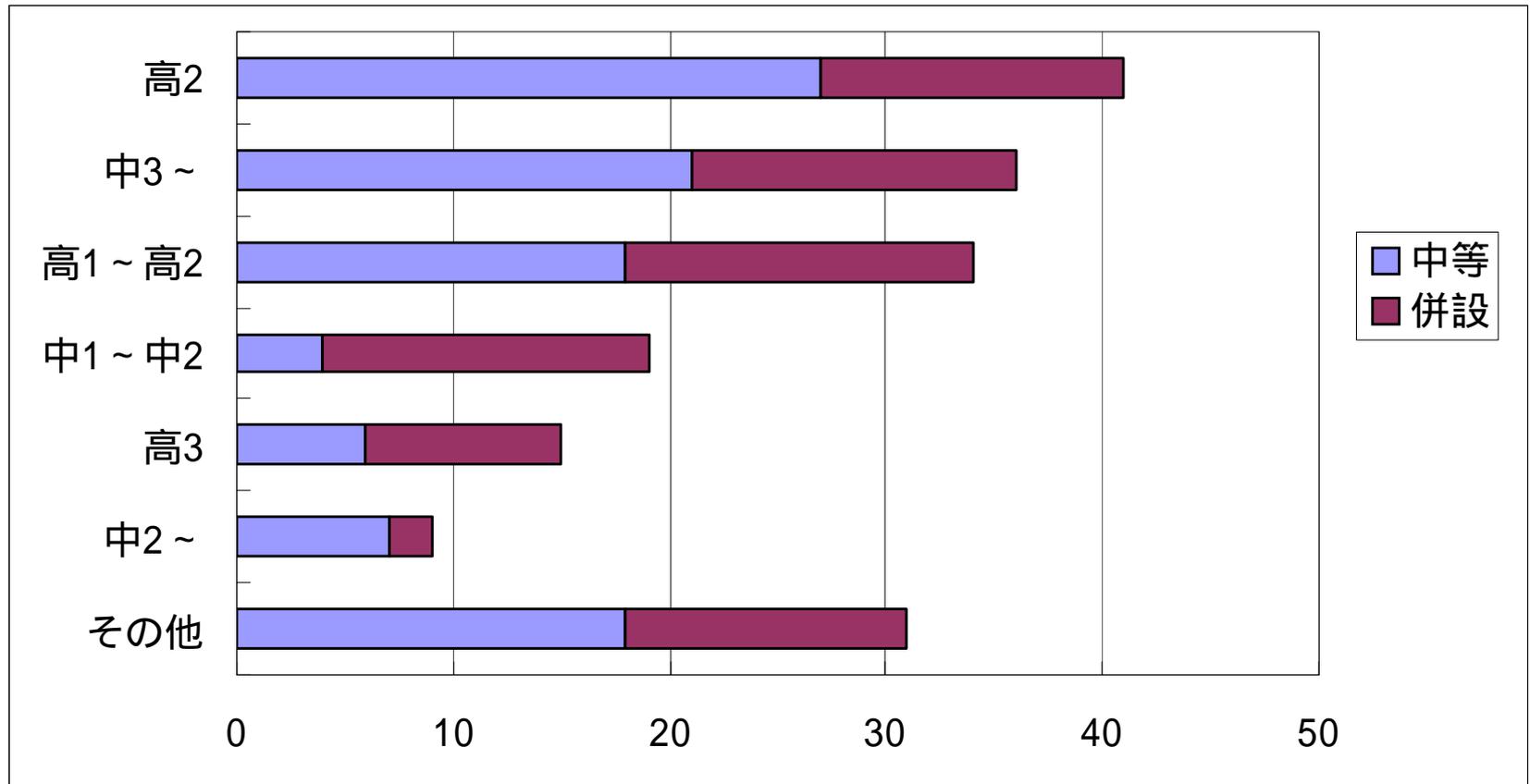
人間関係	<p>協調性のない人や陰口を言う人がいたため。 協調性の欠け。思いやりのなさ。 友人関係。友人とのコミュニケーションの取り方がうまくいかず悩んだ。 長い間一緒にいすぎて嫌なところがみえてきた。 長い付き合いの中で、友人の嫌な点が見え、関係が少しこじれた。 慣れ合い。先生と合わなかった。軽いうつ状態だった。 いまだによくわかってません。ただ、他人の発言や態度に傷ついていたのの積み重ねからかと。 学校になれてない。クラスに仲の良い子がいなかった。 周りからのキツイ一言。それは本当にやめて欲しい。自分の気持ちを察して下さい。 人数が少ないためか、生徒・クラスに派閥ができてしまっているから、ハバられるような事も起こる。</p>
自分の問題	<p>自己主張が激しかった。 自己責任 自分がマイナス思考な時期だった。 自分が悪かった、人間不信になった、など。 自分が一生懸命にやることが見つからないとき。 自分にただ自信がなくなっただけ。</p>
価値観の違い	<p>主観的・客観的な思考の違い。 ちょっとした価値感の違い。 価値観の違い。 考えの違いなど。</p>
環境の変化	<p>新しい環境で不安があった。 途中からの入学で、不安もあったし、何より初めて出会う人が多かったから。 入学の時など初めての時は、頼る人や話す人がいない時が不安定だと思う。 新しい環境で不安があった。</p>

在学時不安定になった理由 卒業生

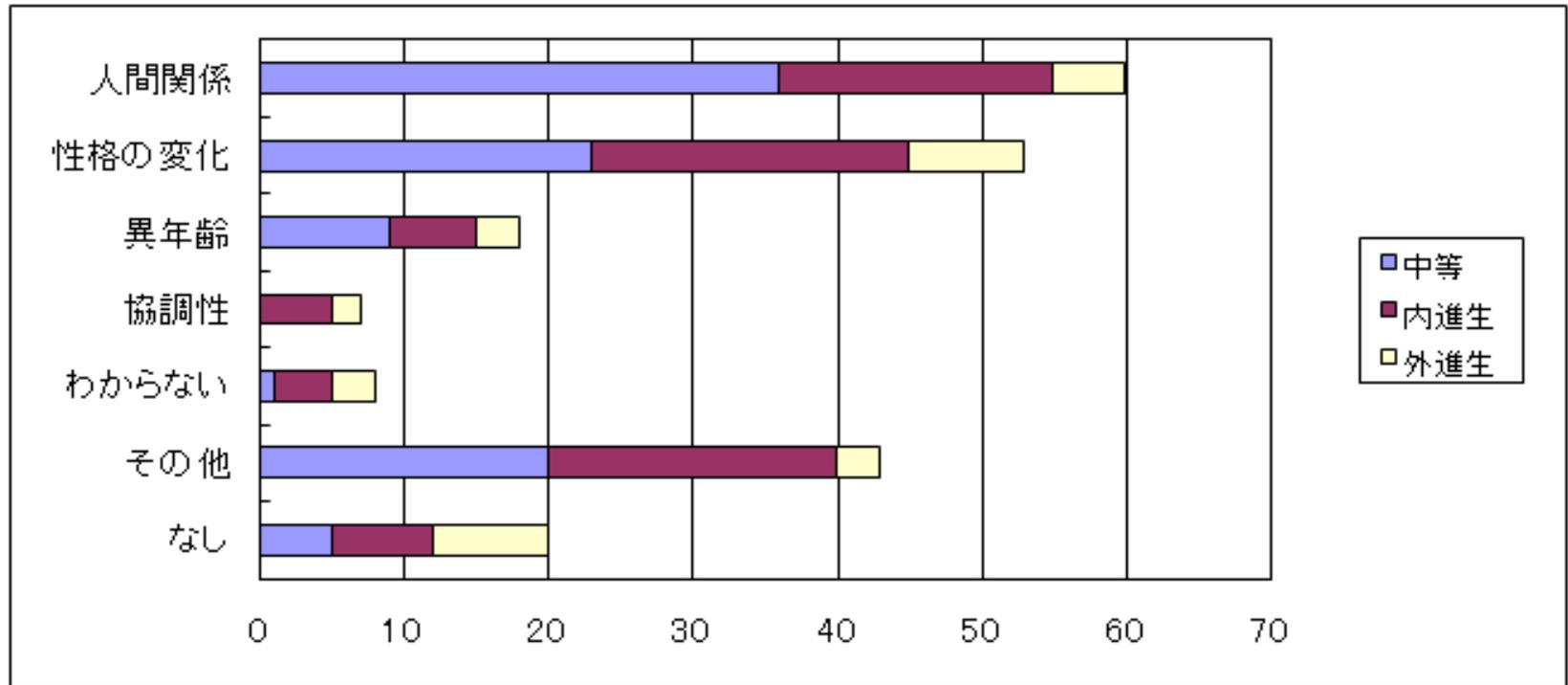


人間関係	<p>1学年の人数が少ないので、人間関係が濃く、そのためにこじれてしまったと思う。 1年の頃は全体的にギクシャクしていたが、3～6年の頃には慣れて、一種の共同体のようになっていた。 6年間という長い間、同じ人と一緒にいるので、一度過ちを犯すと取り返しがつかず、やり直しがききにくいところ。 6年間同じクラスメイトだと、やり直す機会がないのだと思います。 人間関係が入れかわらない圧迫感、閉そく感 中1の頃いじめにあった(集団無視程度) 中学の最初は、小学生気分を引きずっていたためか、くだらない事で仲のいい友達への態度を変えたりしていた。あと、クラス替えで前の固まりがあったとき。 長いこと少ない人数でいて、気を許せる反面、配慮に欠けてしまうとき。</p>
自分の問題	<p>常に同じ所にいるという所。 常に同じ生活を送ること。 個性的な人々に囲まれて、なんとか自分の存在意義を見つけ出そうと焦っていた。 それが空回りしていたと思う。 固定観念によるもの。 互いがまだまだ幼く、客観的判断ができなかったから。</p>
思春期	<p>思春期だから。 思春期の人間関係の複雑な時。 思春期特有のものだったと、今では思います。当時は個人の相性の問題だと思っていました。 思春期特有の人間不信や自己嫌悪、だと思います。最大は自意識過剰ですね。</p>
内進と外進	<p>内進生の仲が深すぎて入れなかった。 内進生は受験もなく、学校生活も3年間差があるようにみえて、優遇されている様に思えてしまう。 内進生同士の絆の深さには、入り込めないものもあって戸惑った。</p>

急成長した時期 在校生

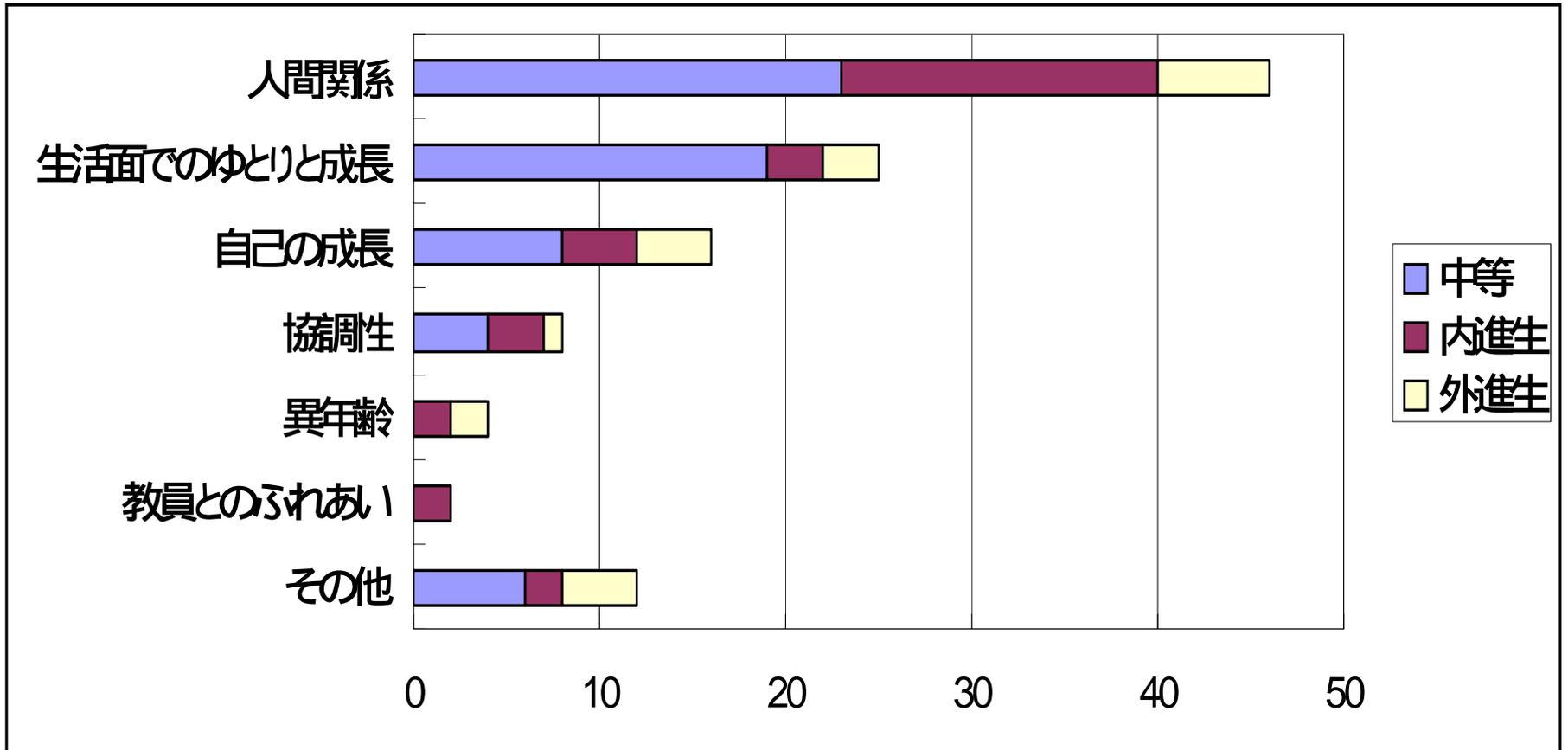


人間形成への影響 在校生



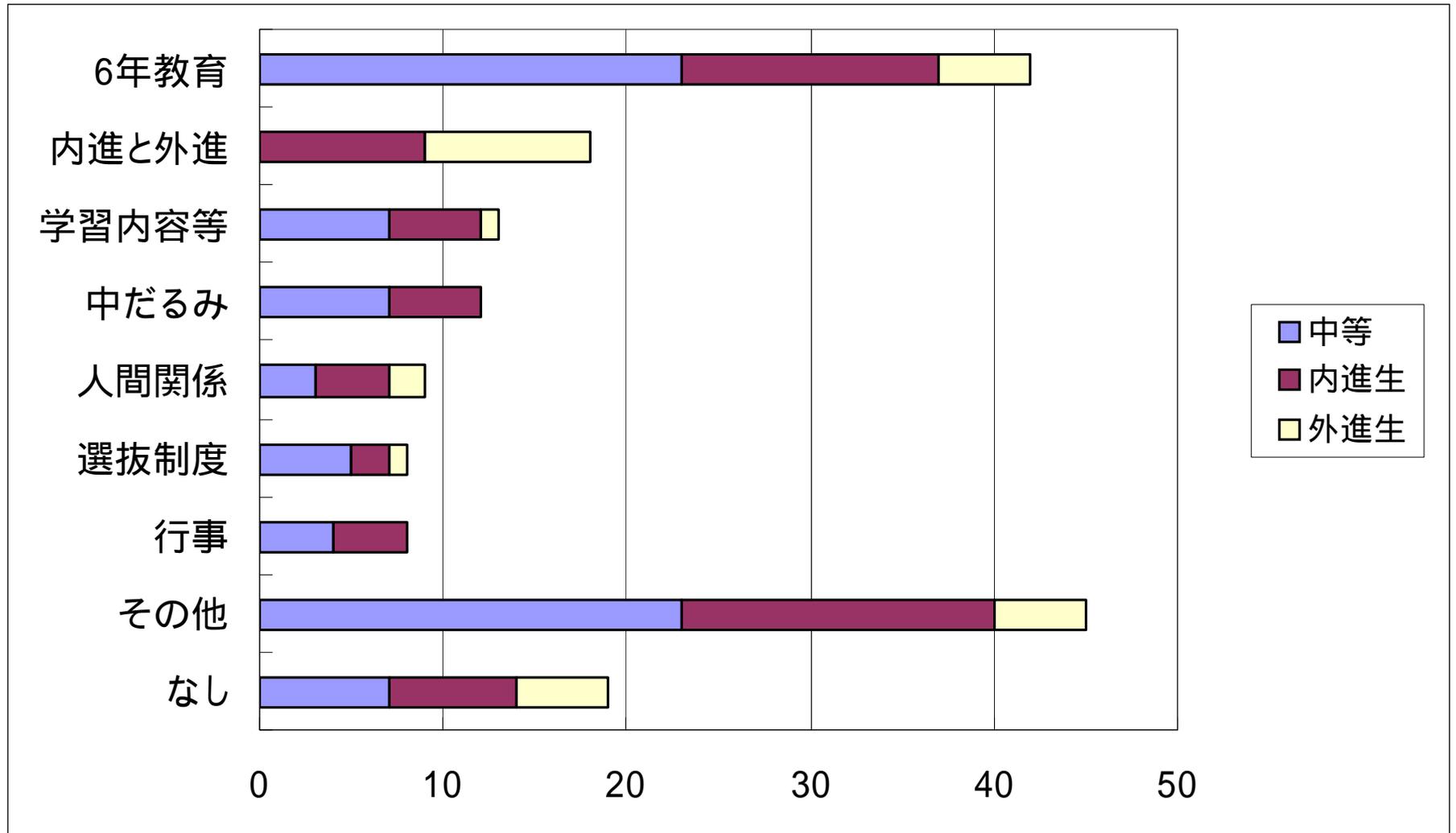
人間関係	<p>人に自分自身を隠すことなく、ありのままの自分であることが大切だと分かった。 人に惑わされず、自分のよかれと思う様に行動できるようになった。 長期的に友人と付き合うことで、協調性が生まれた。 中学校から友達と一緒にいたので、とてもいい深い人間関係が築けた事。 良い仲間をめぐまれ、仲間の大切さにより気づいた。 いろんなタイプの人と話せるようになった。年齢・性別関係なく、友達がたくさんできた。 人間不信(?)</p>
性格の変化	<p>自分の意見を持てるようになった。 人にはっきりと言える人に少しなれたと思う。 自主性が向上した。 自分のなりたい職業とか自分の将来を考えて行動するようになった。 同年代の人に比べると自律心が強いと思う。 まだ卒業してませんけどね…。積極的になれたかな。 理屈っぽくなった。</p>
異年齢	<p>1～4年を、5年生のときは引っぱっていかなければならない点。 1年生のときには先輩が高校生しかおらず、自然と人見知りがなくなった。社交的になった。 5歳くらい年上の先輩と仲良くなった点。 一般の後輩以下(中学生)がいることで、説明をわかりやすくできるようになった。部活のおかげ。 中1のときに高3の先輩や高2の先輩と仲良くなったこと。部活に高校生がいたこと。</p>

人間形成への影響 卒業生



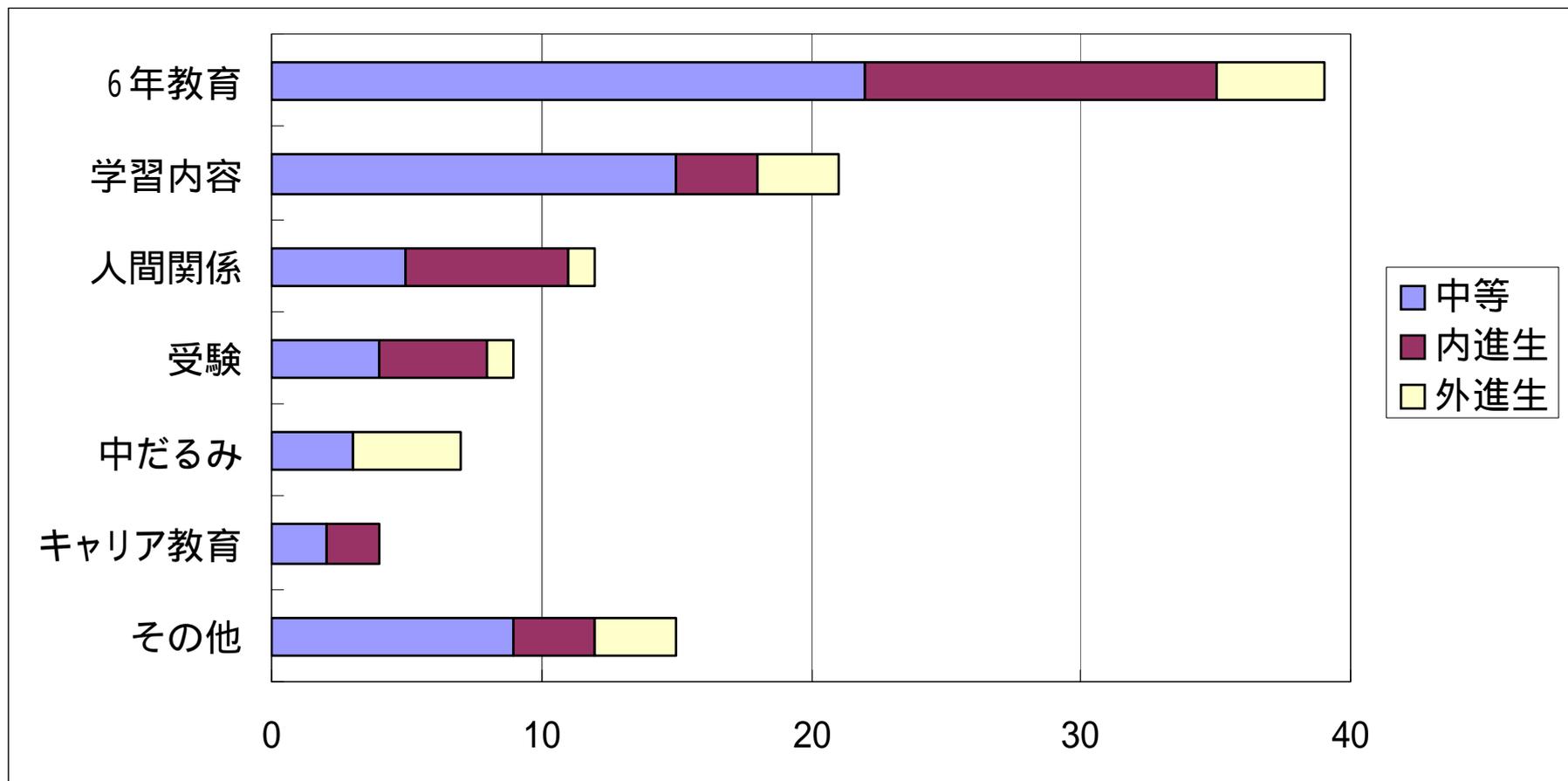
人間関係	<p>6年間共に過ごすということで、相性が合わない人とどうすればうまく付き合っていけるかを学びました(避けてばかりでは6年間で必ず不都合が生じるので)</p> <p>議論できる友達ができ点、信用し合える一生の友達ができ点、知り合いが誰もいない中でも、その輪の中に入っていけるようになった点、長いスパンで、人と人との結びつきが大切だということ。</p>
自己の成長	<p>自分がやりたいことをじっくり考えて実行できるようになったこと。</p> <p>毎年同じことができるので、来年はより良くしよう、と向上していく力が身についた。</p> <p>社会との協調性や発表力など、今の社会を生きる力を附属で学ぶことができた。</p> <p>それが人格形成に大きくつながったと思う。</p> <p>自分をもてるようになった。積極的に、何事においても関わることができる。</p>
生活面でのゆとりと成長	<p>遊ぶ時は遊び、集中する時は集中できる。</p> <p>中だるみをしてじっくりと自分と、将来と向きあえたこと。受験があったら、そんな自分を押し殺していたと思う。</p> <p>基本的思想・現在の社会的立場や興味関心など、すべてにおいて中高一貫教育を受けたことが影響している。</p> <p>これといった校則もなく、善し悪しを自分自身で考え、行動させてもらえたこと。</p> <p>ゆったりした校風のおかげで、のびのびと生活することができている。</p> <p>安定した環境の中にいることができ、他者に対して優しく接することを肯定的に思うようになった。</p>

提言 在校生



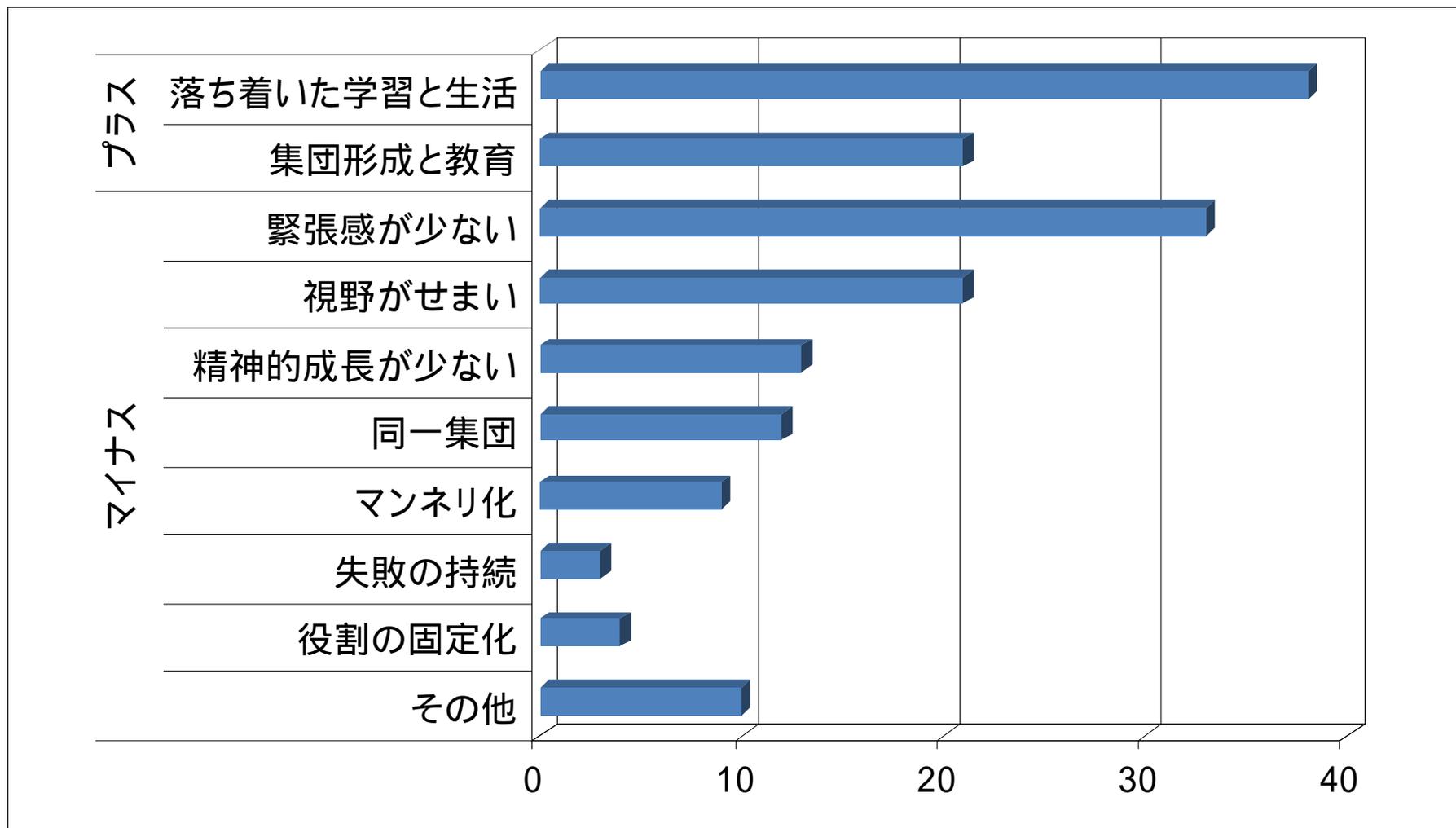
6年教育	<p>部活以外にもっと違う学年との交流ができる、何かイベントでも設ける。 中高一貫らしく、他の学校とは違う特色を持ってほしい。 もっと中高一貫のメリットを生かして特色を出すべきだと思う。 正直、高校に入ってから外進生と変わらない。 中学・高校との交流は実際ほとんどないと思う。けれども交際があったところで、 あまり何か変わることはないと思う。でも、身近に高校生がいるということは、高校3年で 自分が立ちむかうであろう受験の雰囲気はなんとなく分かると思う。</p>
内進と外進	<p>内進生・外進生と分けてしまわず、内進生と外進生という意識を消せるように、 一緒に活動する時間を増やしたり、1年生の時点からクラスを皆一緒にすればいいと思います。 高校から入学した人にとってはあまり影響がなかったのも、もっと中高一貫の行事などを 取り入れた方がよい。</p>
学習内容等	<p>もっと難しい授業を。外進生を入れるのは少しかわいそう。 基礎を早い時期からしっかりやるべきだと思う。</p>
中だるみ	<p>中だるみをどうにかすべき。受験がないのはいいが、だからといって楽しさせるのもどうかと。 中3の終わりに高校入試のようなことをやって、意識を変えるきっかけを与えるべきである。 中学校から高校にあがる時に受験が無いことで、勉強をしない傾向があると思う。 そこをなんとかしなければ、学校としてレベルアップはできないのではないかと。</p>

提言 卒業生



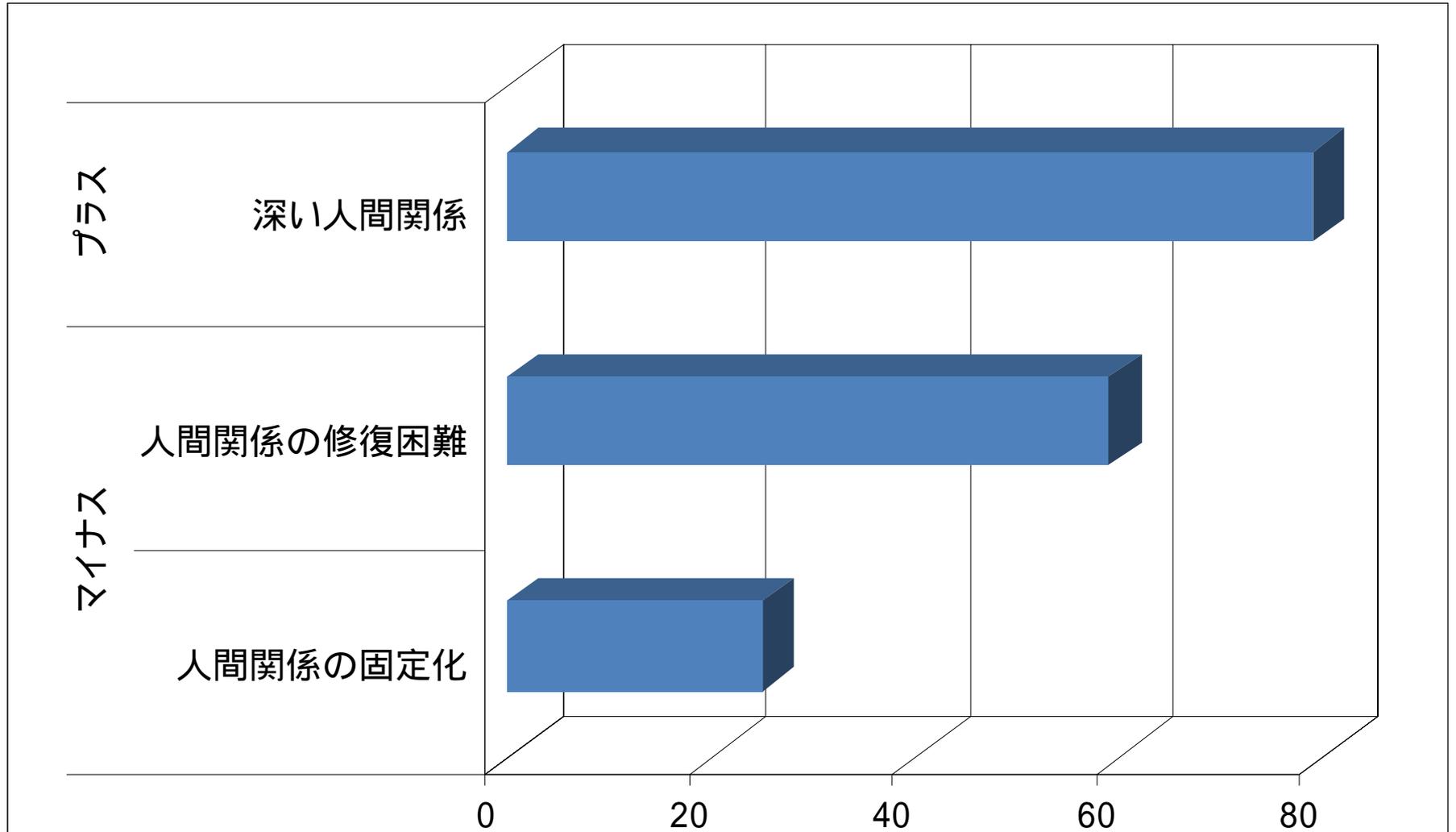
6年教育	6年間を通して、学習の方針に一貫性を保つこと。中高一貫と言えども、とどのつまり、教師の力にかかってくる。人間的な魅力とともに、ゆるがない学習方針を持った教師が6年間を通して指導すべき。中高一貫教育を受けることで、世界が狭くなると考える人もいるが、一貫であるからこそ、人との結びつきや自分の関心があることについて深く考えられると思う。しかし、学内の環境に合うか合わないかは、両極端に分かれると思う。
学習内容	今まで通り、他からすれば「ゆるい」とされるカリキュラムをそのままにして欲しいとも思うが、やはりこれからは、もう少しゆとり教育とは離れた学習環境も必要かと思う。学校生活の面では十分に満足できるものだった。でも勉強の面では、学校で受験対策といえるものがあまりなかったように思うし、生徒1人1人に任せすぎだったかなと思う。
人間関係	その学校に合う人が行けば、6年間は天国ですが、反面、やめる生徒もたくさんいました。ドロップアウトする生徒が出ないようにしてほしいです。いじめや不登校の生徒へのケアに力を入れてほしい。特に中学生は、転校しないかぎり、そのまま高校へ進学するので。中学生と高校生の交流があると、自分の将来像を描き易くなるため、積極的に進路について考えることができた。学校行事等も、幅広い学年が参加することで独自のおもしろみがあった。
受験	高校受験をしていないことで大学受験への準備にもたつくかも知れませんが、その時間に豊かな心を育めることは、とても有益だと思います。
中たるみ	中学から高校へ進学する際、何らかの試験を行うべきかと思います。ゆとり教育とはいっても、そういった厳しい面と直面することで、その後の成長に大きく関わってくる気がします。中たるみ期間はどうしても発生してしまうが、意味のある中たるみ期間を生徒が経ることができるような、教育というか、環境になればと思う。

中高一貫のプラスとマイナス(学習・生活面) 教員



プラス	落ち着いた学習と生活	じっくり自分のことを考えられる 一貫性のある指導が受けられる ゆとりを持って学習に取り組める 安定した人間関係の中で落ち着いて学習・生活していける
	集団形成と教育	自分のことをよくわかってくれる人達の中で、6年間落ちついて勉強できる 入試がない分、目標があれば、その目標達成に時間がかげられる すばらしい友人にめぐり会えたら大きな財産。
マイナス	緊張感が少ない	教員も生徒も緊張感がない 慣れ合いの関係ができ、刺激が少ない 刺激が少ないので幼い面がある 刺激が少なく緊張感に欠ける 馴れあいになってしまい活力が出ない 「なれ合い」が「中だるみ」や「緊張感のなさ」を引き起こす 先輩が長くいるため、後輩が伸びにくい 高校生デビューがない分、自分の殻に閉じ込めりやすい 中だるみ。試験(入試)がないことからの学習意欲・緊張感のなさ。 競争に対する意識の持ち方が多少うすれる 受験がないので中だるみ。受験の怖さを知らない。
	視野がせまい	井の中の蛙 世界が狭い 世界観が狭小となる
	精神的成長が少ない	高校入試というハードルを越えた経験がないこと
	同一集団	小さな集団のまま6年間過ごす 新しい人間関係をつくることの機会が失われている

中高一貫のプラスとマイナス(人間関係面) 教員



プラス	深い人間関係	<p>深い仲間意識 友人関係が濃密になること 互いの意思疎通がとりやすい 結束力が強くなる 先生と生徒、生徒同士の人間関係が深まる</p>
マイナス	人間関係の修復困難	<p>人間関係づくりが苦手な生徒にとっては、限られた小集団での6年間は つまづいたら苦しいと思われる 人間関係に一度つまづいた生徒にとっては厳しい環境である その生徒に向けられた固定観念(良くない)が変えられない 限られた人間関係で生活しているので、外部の人間との関係をうまく結べない いじめがあると、その人間関係がずっと残りやすい</p>
	人間関係の固定化	<p>人間関係において、よくも悪くも固定化されていると思う 人間関係が狭くなる傾向がある</p>

自由記述が指し示すこと

- 1) 中高一貫教育に対する魅力として、受験がないということがあげられているが、生徒達は単に楽であるという認識でからそう答えているだけではなく、そこでの学習や自己研鑽の可能性に期待している。
- 2) 学習内容や一貫校の特色については、何らかの形で情報を収集しており、人間関係や学習について明確でないにしろ生徒なりの評価をしているようである。
- 3) 一貫校の生徒達は、制度が持つ時間的なゆとりに魅力を感じている。
- 4) 一方で入学時における一定の学力保証が必要であるとする意見が多く見られる。
- 5) この背景の一部として、6年間のゆとりの中で知識の習得などに関係した自己実現への活動において、学力の多様性がマイナスに働いているとする意識が存在していると考えられる。
- 6) 彼らが期待していたゆとりが作り出す人間関係の豊かさは、その効果を示しているが、同時に副作用として、人間関係の複雑さをもたらし、不安定さを引き起こしていると考えられる。これらについては、量的データの結果も含めて精査が必要であろう。
- 7) この不安定さは、マイナス効果と同時に、人間としての強さを作り出している。このような自己省察的評価は、在学時でなく卒業後に意識されるようである。
- 8) 制度導入時に期待されていた、異年齢間の交流は一定の効果が示された。
- 9) 人間的成長は回答者の視点によって多岐であったが、総じて肯定的であった。
- 10) 6年間の時間的なゆとりとその意義については認識されているが、一方で、中高一貫教育の内容がどのような点で独自性を持つのが十分に見えていない。
- 11) 上述の問題点は教員においても認識されている。教員の回答からは課題に対する取り組みの姿勢が強く見える。

本報告は、本報告は全国中高一貫教育研究会、研究グループの調査報告に基づくものであります。

詳細につきましては、本年発刊される予定の報告書および、11月に刊行される紀要をお待ちください。